

## 推薦書

辻 貞俊先生は産業医科大学、国際医療福祉大学名誉教授であり、これまでてんかんの研究、教育、診療、社会活動において大きな功績を残されています。

先生は九州大学医学部を卒業後、九州大学神経内科に入局されました。米国国立神経研究所グアム研究センター 研究員として留学後、米国クリーブランドクリニック財団病院神経内科に留学、ハンスリュウダース先生のもと臨床神経生理学の研鑽を積まれています。産業医科大学医学部に講師として赴任後、脳神経内科学教授、医学部長を歴任され、2013 年定年退官、名誉教授を授与されています。その後国際医療福祉大学福岡保健医療学部長を務められ、現在は国際医療福祉大学名誉教授であります。

先生の研究成果は世界をリードするもので、特筆すべきは本邦で最初に経頭蓋磁気刺激法（TMS）を導入されたことであり、TMS を用いててんかんの病態解明に寄与する研究成果をあげられています。高齢者てんかんの研究に先鞭をつけられ、世界に発信できる疫学研究をはじめ新しい知見を発表されています。

臨床ではクリーブランドクリニックでの経験をもとに産業医科大学病院にビデオ脳波モニタ検査を導入し小児科・脳神経外科・精神科と協力し、てんかん外科治療を推進、年間 30 例以上の外科手術が行われる 3 次包括的てんかん診療施設を確立されました。辻先生の教授回診では、詳細な病歴、正確な神経学的診察、脳機能解剖に基づいた推論を駆使した診断を教授していただき、医局員一同がいつも楽しんでいる教育機会でありました。脳波の判読教育は厳しく皆が閉口していましたが、医局員が高度の判読能力を身に着けることができたのも産業医大の伝統となっています。

学会活動としては、日本てんかん学会理事、日本神経学会理事、日本神経治療学会理事、を務められ、日本臨床神経生理学会では理事長を務められました。日本神経学会てんかん治療ガイドライン 2010 作成委員長に任命され、日本で最初のてんかんガイドラインをまとめ上げられました。てんかん学会理事としては脳神経内科医のてんかん学会への参加を推進されています。第 8 回国際誘発電位学会会長、第 39 回日本臨床神経生理学会学術大会会長、第 30 回日本神経治療学会会長、第 47 回日本てんかん学会会長として、国内外の学会を開催されています。脳神経内科によるてんかん学会主催は辻先生が日本では最初であります。

てんかんに関連する社会活動としては、警察庁：一定の病気等に係る運転免許制度の在り方に関する有識者検討会委員および法務省：法制審議会刑事法（自動車運転に係る死傷事犯関係）部会委員を務められ、てんかん医療者の代表として法律の策定に貢献されています。厚生労働省てんかん地域診療連携体制整備事業評価検討会評価委員として、日本のてんかん医療整備にも尽力されました。

主な受賞歴には、2013 年日本臨床神経生理学会賞、北九州市功労賞、2014 年日本てんかん学会功労賞があり、これまでの業績が高く評価されています。

辻貞俊先生はこのようにてんかんの研究推進、診療の向上、社会的活動において大きく貢献され、てんかん治療研究振興財団研究功労賞にふさわしく、推薦申し上げます。

国際医療福祉大学医学部脳神経内科 教授

赤松直樹